



株式会社トモク 2020年3月期第2四半期 決算説明資料

2019年11月27日

東証・札証

3 9 4 6

1. 2020年3月期2Q決算
 2. 2020年3月期決算見通し
 3. 特徴・強みとトピックス
 4. 成長戦略・中期経営計画について
- ご参考資料（会社概要など）

「包む」をイノベーションする。



2020年3月期2Q決算

「包む」をイノベーションする。



TOMOKU

増収増益。

売上高83,332百万円 (+5.6%)、営業利益1,663百万円 (+17.5%)

- ・主力の段ボール事業が牽引、住宅事業の採算性が改善。

段ボール事業：需要増に伴う販売量増加、製品価格改定、海外事業伸長
住宅事業：消費税増税前の駆け込み需要もあり、リフォーム好調

売上高・・・段ボール、住宅事業堅調、天候不良で運輸倉庫停滞。

売上総利益・・・段ボールは海外伸長、住宅事業採算改善で増益。

営業利益・・・販管費抑制の効果もあり二桁増益。

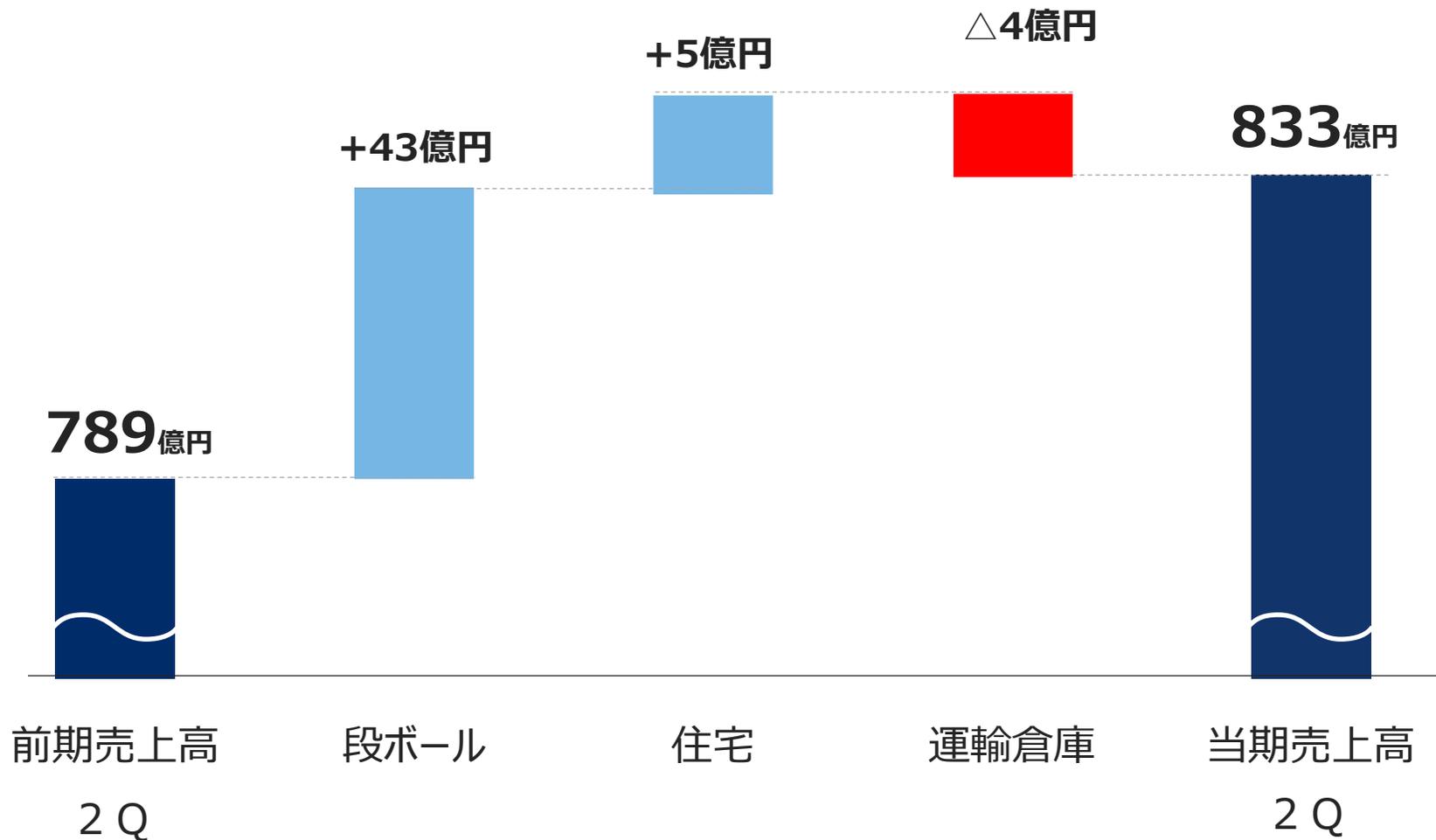
増収増益。営業利益は、期初計画を上回る二桁増益（+17.5%）。

経常利益は、為替差損の影響もあり減益。

（百万円）

	2019年3月期 2Q	構成比 (%)	2020年3月期 2Q	構成比 (%)	前年 同期比 (%)	期初計画 (5/8公表)
売上高	78,899	100.0	83,332	100.0	+5.6	86,000
売上原価	66,192	83.9	70,006	84.0	+5.8	-
売上総利益	12,707	16.1	13,325	16.0	+4.9	-
販売費及び 一般管理費	11,292	14.3	11,661	14.0	+3.3	-
営業利益	1,415	1.8	1,663	2.0	+17.5	1,500
経常利益	1,806	2.3	1,735	2.1	△3.9	1,500
親会社株主帰属 四半期純利益	1,030	1.3	975	1.2	△5.4	600

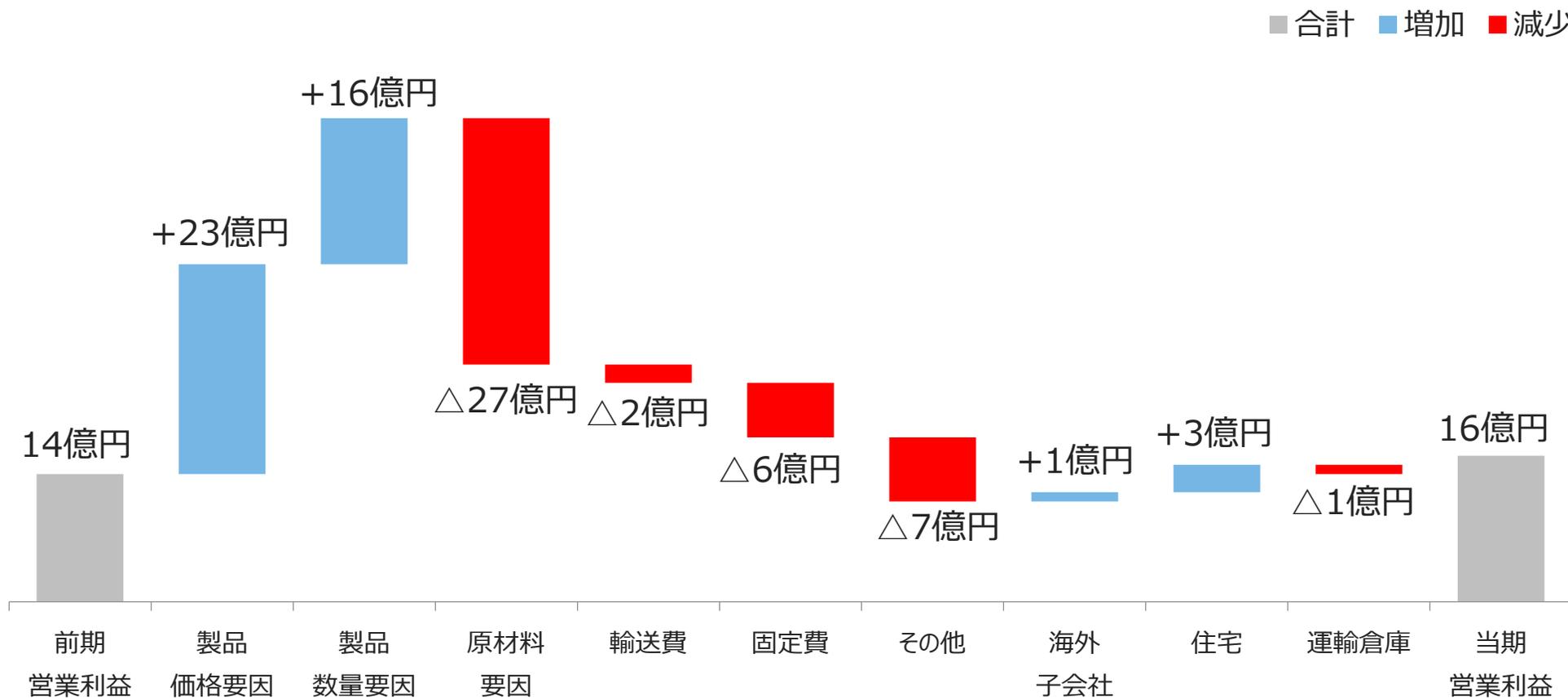
段ボール事業での価格改定・数量増効果・海外事業の伸長。住宅事業はリフォーム堅調で増収。



段ボール価格改定と数量増加で原材料の高騰をカバー。コスト管理の強化も寄与。

海外子会社（段ボール事業）収益寄与、住宅事業のリフォーム強化による採算性改善も貢献。

2020年3月期第2四半期決算 営業利益増減分析



段ボール事業は、製品価格の改定効果もあり好調。住宅事業は採算改善。

(百万円)

		2019年3月期2Q	2020年3月期2Q	前年同期比
段ボール	売上高	46,208	50,492	+9.3%
	営業利益 (営業利益率)	2,703 (5.8%)	2,801 (5.5%)	+3.6%
住宅	売上高	12,232	12,770	+4.4%
	営業利益 (営業利益率)	△2,102 (-)	△ 1,835 (-)	-
運輸倉庫	売上高	20,458	20,068	△1.9%
	営業利益 (営業利益率)	1,147 (5.6%)	1,083 (5.4%)	△5.6%
合計	売上高	78,899	83,332	+5.6%

増収と販管費抑制により営業増益。上期の収益構造は、前年同期並み。

(百万円)

	2019年3月期				2020年3月期		
	1 Q・2 Q	構成比 (%)	3 Q・4 Q	構成比 (%)	1 Q・2 Q	構成比 (%)	前年同期比 (%)
売上高	78,899	100.0	92,681	100.0	83,332	100.0	+5.6
売上原価	66,192	83.9	77,648	83.8	70,006	84.0	+5.8
売上総利益	12,707	16.1	15,032	16.2	13,325	16.0	+4.9
販売費及び一般管理費	11,292	14.3	11,242	12.1	11,661	14.0	+3.3
営業利益	1,415	1.8	3,789	4.0	1,663	2.0	+17.5
経常利益	1,806	2.3	3,798	4.1	1,735	2.1	△3.9
親会社株主帰属 四半期純利益	1,030	1.3	3,434	3.7	975	1.2	△5.4

段ボール及び住宅は増収、住宅事業は収益性が改善。

（百万円）

		2019年3月期				2020年3月期		
		1・2Q	構成比 (%)	3・4Q	構成比 (%)	1・2Q	構成比 (%)	前年 同期比
段ボール	売上高	46,208	58.6	46,366	50.0	50,492	60.6	+9.3%
	営業利益 (営業利益率)	2,703 (5.8%)	-	542 (1.2%)	-	2,801 (5.5%)	-	+3.6%
住宅	売上高	12,232	15.5	29,221	31.5	12,770	15.3	+4.4%
	営業利益 (営業利益率)	△2,102 (-)	-	3,179 (10.9%)	-	△1,835 (-)	-	+267
運輸倉庫	売上高	20,458	25.9	17,093	18.4	20,068	24.1	△1.9%
	営業利益 (営業利益率)	1,147 (5.6%)	-	502 (3.0%)	-	1,083 (5.4%)	-	△5.6%
合計	売上高	78,899	100.0	92,680	100.0	83,332	100.0	+5.6%

工場用地取得は借入金で対応。

(百万円)

資産の部	2020年3月期 2Q末	前期末増減
流動資産	59,610	+3,247
現預金	7,742	△2,537
受取手形・売掛金	29,985	+1,155
たな卸資産	13,039*	+2,950*
固定資産	88,724	+2,570
有形固定資産	73,307	+3,053
投資その他の資産	15,189	△461
資産合計	148,334	+5,817

(百万円)

負債の部	2020年3月期 2Q末	前期末増減
流動負債	46,994	+3,642
支払手形・買掛金	17,942	△1,652
短期借入金	15,142	+2,522
固定負債	39,103	+2,122
長期借入金	27,027	+2,190
純資産	62,235	+51
(内自己株式)	(4,319)	(△1)
負債・純資産合計	148,334	+5,817

2Qでは住宅事業の未成工事支出金が営業キャッシュ・フローに影響。

(百万円)

	2019年3月期 2Q	2020年3月期 2Q	増減	備考
現金・同等物 期初残高	9,847	10,045	+198	
営業活動C F	△854	△ 79	+775	
投資活動C F	△2,352	△ 6,236	△3,883	土地取得
フリーC F	△3,206	△ 6,315	△3,109	
財務活動C F	1,171	3,726	+2,555	借入金の増加
現金・同等物 期末残高	7,880	7,509	△371	

2020年3月期決算見通し

「包む」をイノベーションする。



TOMOKU

価格改定進む段ボール、拡販効果の運輸・倉庫、リフォーム堅調な住宅事業で、期初見通し達成へ

段ボール : 堅調な国内需要・海外事業の伸長と価格改定効果で増収増益基調

加工食品中心に需要は堅調。
ベトナム・アメリカでの現地需要は着実に増加。
前期下期の原紙高騰の影響は、価格転嫁が進む。

住宅（スウェーデンハウス） : 堅調なリフォームビジネス継続と着工需要復調へ

住宅需要は停滞だが、上半期のリフォームビジネスは下半期も堅調、収益を下支え。
住宅以外（高級賃貸住宅、クリニック、老人ホームや宿泊施設など）を強化、
収益基盤を多様化。

運輸倉庫 : 営業拠点の拡大で増収へ

段ボール需要増と小口化により、需要増加基調変わらず。
製品の運輸・保管も既存顧客をベースとして、営業テリトリー拡大や、
営業強化の成果により日用品大手との取引拡大あり。

2020年3月期決算見通し：期初見通し変更せず。売上、利益は「過去最高更新」へ。



売上高：+7.8%の1850億円 営業利益：+46.0%増の76億円

経常利益：+42.8%増の80億円 親会社株主帰属純利益：+12.0%増の50億円

(百万円)

	2019年3月期 (実績)	構成比 (%)	2020年3月期 (計画)	構成比 (%)	前期比 (%)
売上高	171,580	100	185,000	100	+7.8
営業利益	5,204	3.0	7,600	4.1	+46.0
経常利益	5,604	3.3	8,000	4.3	+42.8
親会社株主帰属 純利益	4,464	2.6	5,000	2.7	+12.0

下期営業利益約60億円を想定。親会社株主帰属当期純利益も約40億円へ。

（百万円）

	2019年3月期（実績）				2020年3月期（計画）			
	上期 （実績）	構成比 （%）	下期 （実績）	構成比 （%）	上期 （実績）	構成比 （%）	下期 （計画差異）	構成比 （%）
売上高	78,899	100.0	92,680	100.0	83,332	100.0	101,668	100.0
営業利益	1,415	1.8	3,789	4.1	1,663	2.0	5,937	5.8
経常利益	1,806	2.3	3,797	4.1	1,735	2.1	6,265	6.2
親会社株主帰属 当期純利益	1,030	1.3	3,434	3.7	975	1.2	4,025	4.0

段ボール事業は価格改定効果あり、住宅事業はリフォーム需要は引き続き堅調。

(百万円)

		2020年3月期 1・2Q（実績）	2019年3月期 3・4Q（実績）	2020年3月期 3・4Q（計画差異）	2020年3月期 （計画）
段ボール	売上高	50,492	46,366	49,508	100,000
	営業利益 （営業利益率）	2,801 (5.5%)	542 (1.2%)	2,499 (5.0%)	5,300 (5.3%)
住宅	売上高	12,770	29,221	30,230	43,000
	営業利益 （営業利益率）	△1,835 (—)	3,179 (10.9%)	3,035 (10.0%)	1,200 (2.8%)
運輸倉庫	売上高	20,068	17,093	21,932	42,000
	営業利益 （営業利益率）	1,083 (5.4%)	502 (3.0%)	817 (3.7%)	1,900 (4.5%)
合計	売上高	83,332	92,680	101,668	185,000

* 営業利益は、セグメント調整前

© TOMOKU CO.,LTD.

方針と期初計画に変更なし。

方針：「中長期成長投資」と利益範囲内の「積極的な株主還元」のバランスを配慮

2020年3月期（予想）：45円（中間20円+期末25円（+5円増配））

2019年3月期（実績）：50円 普通配（中間20円+期末20円）+ 70周年記念配（10円）
(円)

	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3 (予定)
合計	30	35	35	50	45
中間	15	15	15	20	20
期末	15	20	20	20	25
記念				10	



特徴・強みとトピックス

「包む」をイノベーションする。



TOMOKU

ミッション（使命）

お客様の大切な商品を包み、消費者の皆様にとっての価値を包み、人々の豊かな暮らしを包み、大切なものを包んで届ける。

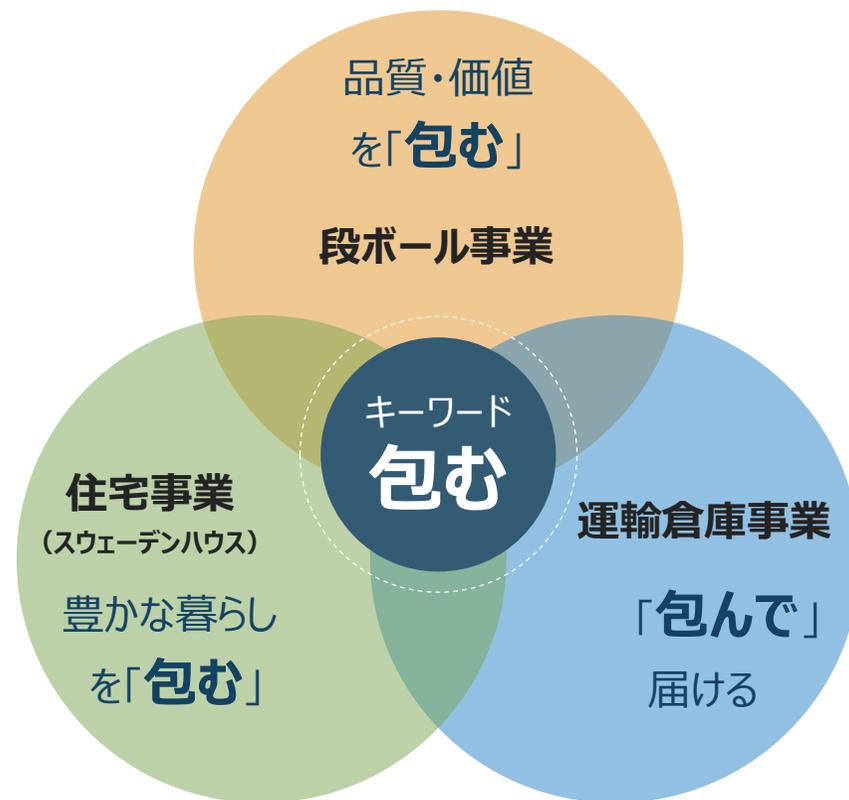
ビジョン（あるべき姿）

- 3つの事業で「包む」を基本コンセプトに経営資源の高度化をはかり高品質経営を展開する
- 高い倫理観と強い責任感を持って事業活動を通じて、社会の持続的発展に貢献する
- 新たな事業の構築に取り組み企業価値の更なる向上を目指す

10年後の経営目標

連結売上高 **3,000**億円以上

連結ROE **12%**以上



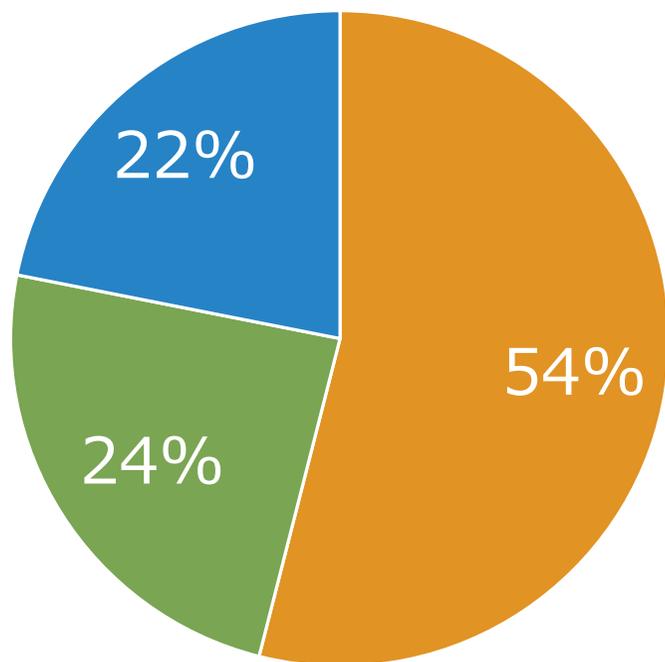
段ボール専門トップメーカー + 運輸倉庫事業・住宅事業を一体化。

「段ボール専門」のトップメーカー（段ボール生産量業界3位*）

高品質で差別化する注文住宅事業、**「スウェーデンハウス」**

段ボールだけでなく、顧客製品も取り扱う、**「運輸倉庫事業」**

段ボール事業 (54%) + 住宅事業 (24%) + 運輸倉庫事業 (22%)



(2019年3月期)

段ボール

段ボールシート、段ボールケース、印刷紙器を製造、販売

米国・ベトナムでも現法を通じて事業展開

住宅

スウェーデンで生産された住宅部材を輸入して、高品質注文住宅事業「スウェーデンハウス」を展開

リフォーム事業も展開

運輸倉庫

当社段ボール類製品の輸送・保管のみならず、**段ボール製品供給先の製品輸送・保管も実施**

互いに収益を補強・補完し、収益を平準化させる唯一無二のビジネスモデル。

段ボール事業

「段ボール」生産・加工専門トップメーカー



住宅事業

「収益の平準化」

段ボールと
顧客対象と年間収益の
動きが異なるビジネス



運輸倉庫事業

「事業の派生・効率化」

段ボールの
運搬機会(帰路)
を利用したビジネス



「段ボール」生産・加工専業で生産量1位、全体で3位。

BOXメーカーとは違い、貼合設備を保有し、最適なメーカーから最適なタイミングで原紙調達

国内段ボール業界

段ボール生産・加工

原紙を使い生産・加工

全国に200社以上*

最適生産者から最適タイミング
で原紙調達可能

製紙一貫メーカー

(原紙工場あり)
(製紙メーカー含む)

① A社	28%
② B社	23%
③ D社	4%

段ボール専業メーカー

(原紙工場なし)



① 当社グループ	9%**
② C社	4%
③ E社	3%

段ボール加工

シートの加工を行うのみ
多品種・小ロット加工

BOXメーカー

全国に約2000社*

零細業者多く、
事業承継問題も発生し、
業界再編の中心

*全国段ボール工業組合連合会調べ

**シート生産量シェアは当社調べ
(2019年度上期)

顧客満足度と高生産性・高効率を両立する「専業」ビジネスモデル。

2つのメリット

段ボール原紙工場を持たないので原紙の国内外からの最適調達が可能
顧客満足度と生産性向上へ集中投資



高い顧客満足度と採算性を両立

効率的な生産・物流

- 業界最速スピードの最新鋭の高速貼合機（大手機械メーカーと共同開発）
- 工場は、最大消費地の関東中心に立地（段ボールは納期厳守が必須）
- 迅速かつ正確なデリバリーを支える物流システム（運輸・倉庫事業会社を活用）

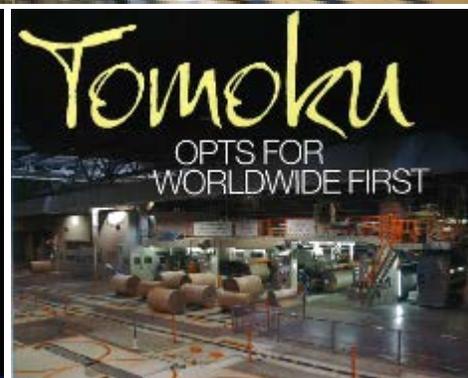
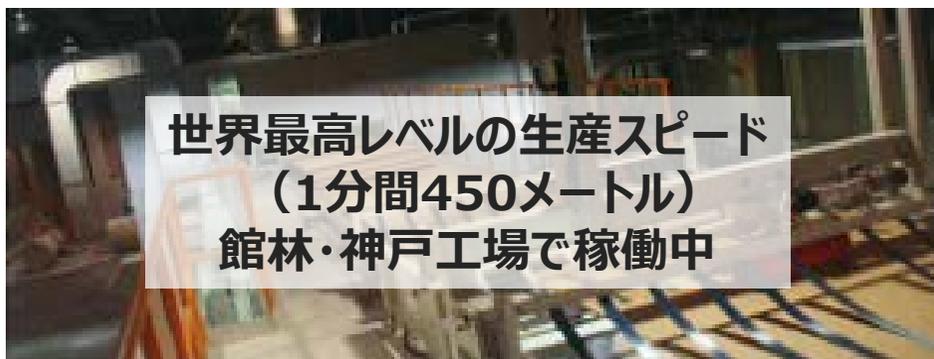
工場と営業部門が一体化

- 工場が生産状況やコストを考慮し受注判断
- 採算性と効率性を追求した受注と生産体制



高い生産性・効率性を担保する設備と生産体制。消費地近接ビジネスにふさわしい工場立地。

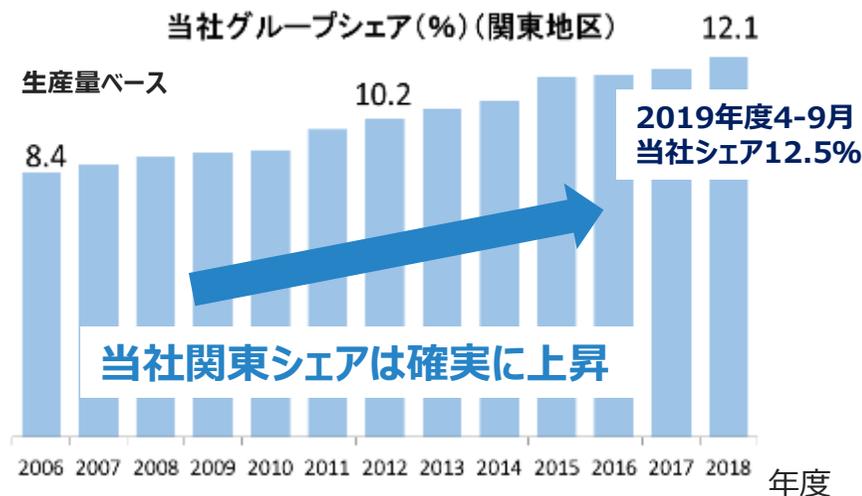
業界No.1の最新鋭高速貼合機の導入
(三菱重工業と共同開発)



最大消費地の関東（全国の44%*）に
主力工場が立地



* 全国段ボール工業組合連合会調べ(2019年1月～9月)



米業界雑誌「International Paper Board」で紹介

段ボール市場世界2位のアメリカと経済成長顕著なベトナムで現地ビジネスを展開。

アメリカ・カルフォルニア

段ボールニーズを的確に捕捉

きめ細やかな日本流カスタマイズと
迅速なデリバリー



+

ベトナム

日本スタンダードを投入

日本基準の品質が評価され、
増産・増収傾向が軌道に



海外事業の収益貢献力高まる

当社段ボール事業海外売上比率約11%（2020年3月期 2Q）

お客様との協業で段ボール生産機会拡大へ。

2019年日本パッケージングコンテスト包装部門賞を受賞。

伊藤ハム（株）との共同開発 「簡易開封・スタック可能な段ボール箱」



メリット：高密度性・高効率性

顧客満足度の追求こそ、当社のビジネスの原点



当社最大の取引分野「加工食品」輸送の
工夫に注力した成果

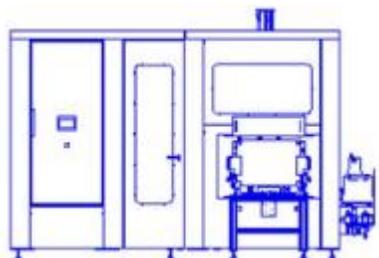
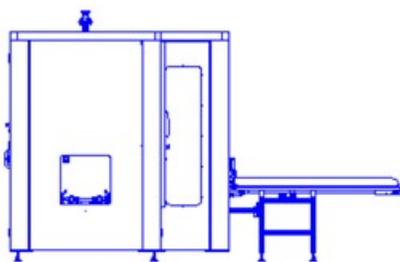


今後の「加工食品」分野を中心に
お客様との協業で、
段ボール事業収益拡大を追求

新型包装機械を導入 + 段ボール営業専用拠点を都心に設置

① 新型包装機械 : 「e3neo」の導入

高さ自動可変可能な e コマース向け包装システム



② デザイン・プレゼンテーション (東京・丸の内) ミーティングルーム



マシンルーム



段ボール顧客の製品輸送・保管を収益化。 段ボール事業の収益補完・強化に寄与。

上期：天候不順で「飲料」運搬が停滞

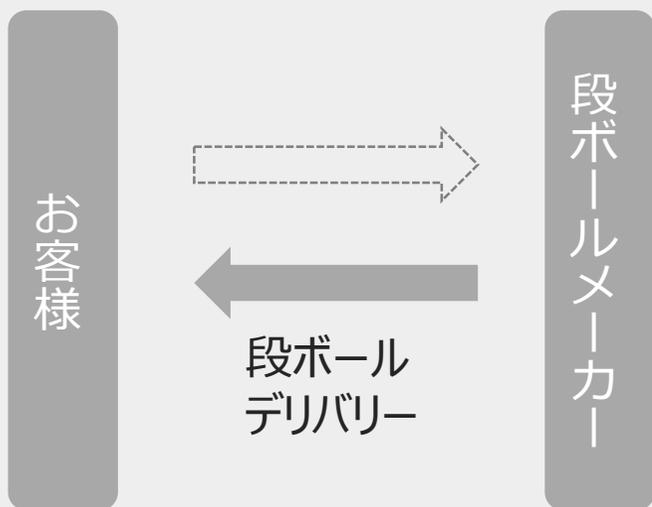
下期：拠点数拡大（+3拠点）などエリア拡大で業績改善へ

直近の新規開設拠点

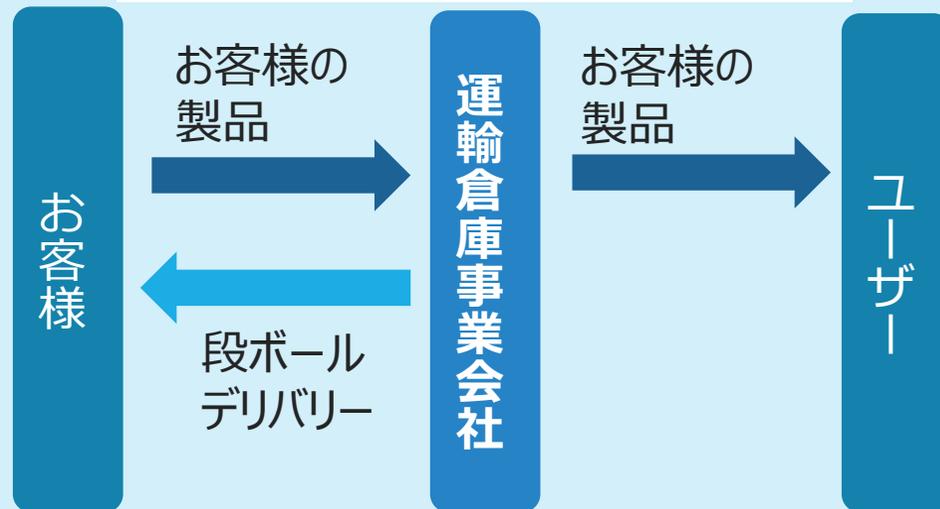
- ①北海道・札幌（2019年6月）
- ②大阪・門真（2019年12月）
- ③大阪・堺（同上）



通常の段ボール運搬 = コスト事業



当社の運輸倉庫事業 = 収益事業



累計35,000戸のオーナーに対して、より快適な住空間を提供。

上期：リフォーム需要増加で住宅事業売上高は+4.4%（前年同期比）

下期もリフォーム好調持続へ。

上期リフォームは、消費税増税前駆け込み需要があり。今後アフタービジネスでブランド強化。

アフター

ビフォー



既存顧客（オーナー）に
リフォームサービスの強化





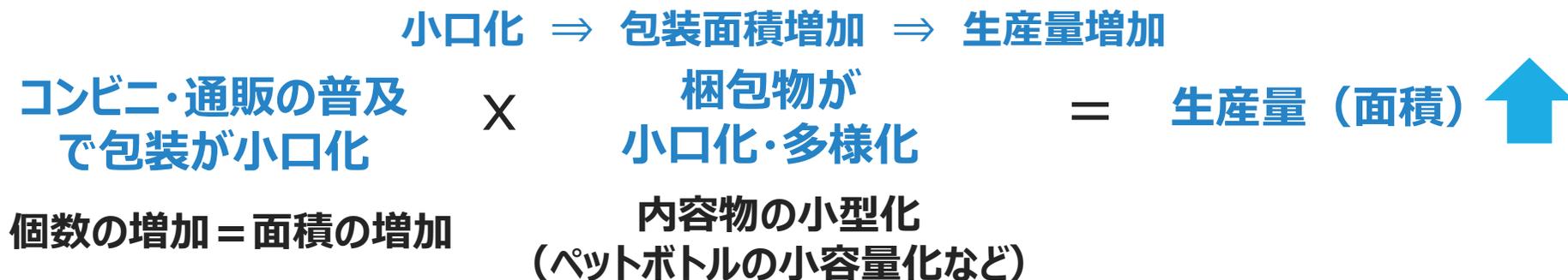
成長戦略・中期経営計画について

「包む」をイノベーションする。

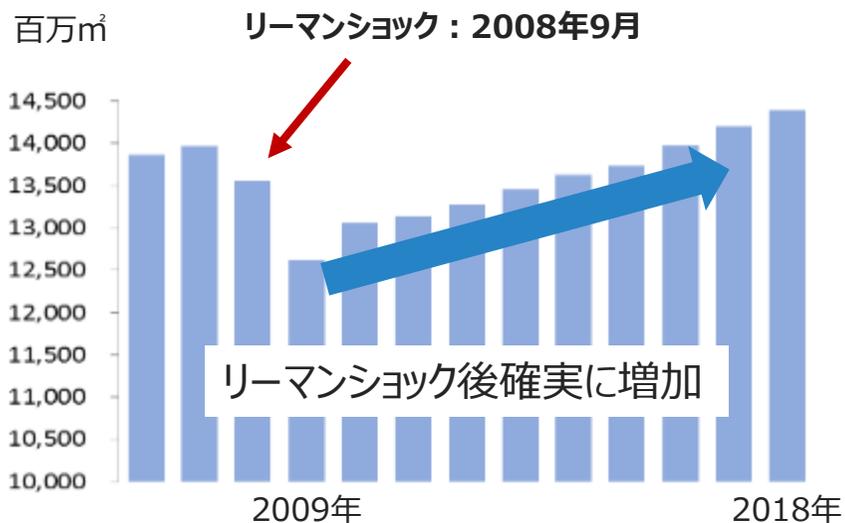


TOMOKU

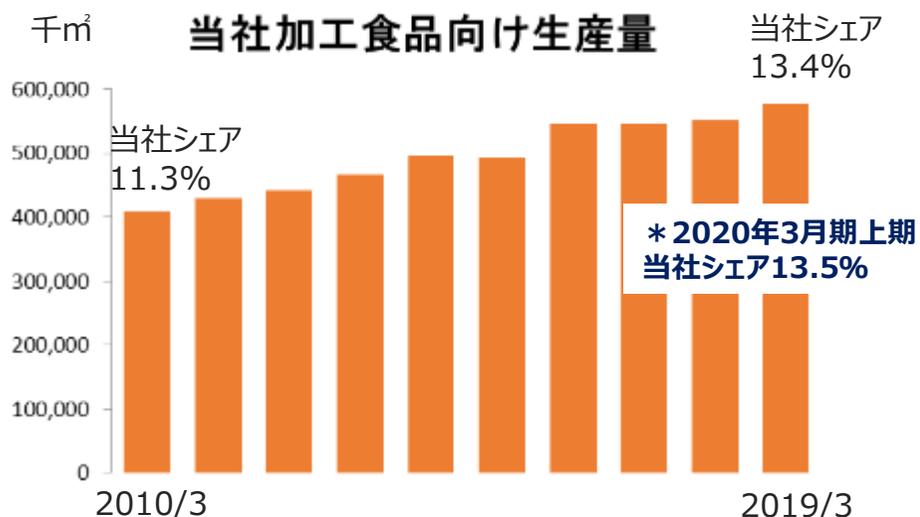
当社は加工食品など食品向け生産量が多く、業績安定＋成長の原動力。
 加えてお客様の新製品や小口化により生産量は増加傾向。



全国段ボール生産量
 小口化で面積は拡大傾向



当社の主力・加工食品分野
 生産量・全国シェアは増加傾向



(出所：全段連＝全国段ボール工業組合連合会 及び当社)

国内外で中長期安定成長が見込める段ボール事業を軸に、堅実に事業機会を創出。

段ボール専門のトップメーカーとしての地位の更なる基盤強化
運輸倉庫事業との「事業シナジー効果」+ 住宅事業との「収益平準化効果」
= 企業価値の向上



高効率物流システムの構築 + 事業間のシナジー効果

数値目標

2022年3月期

売上高2,000億円 営業利益率5.8% ROE10%

運輸倉庫
450億円
(営業利益率5%)

段ボール
1,100億円
(営業利益率7%)

住宅
450億円
(営業利益率4%)

企業価値を向上するために各事業の拡大強化を目的に投資を実施。

	段ボール	運輸倉庫	住宅	
投資枠	<ul style="list-style-type: none"> ・500億円 (海外工場含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ・100億円 	<ul style="list-style-type: none"> ・100億円 	
対象領域	<ul style="list-style-type: none"> ・生産拠点の拡充・強化 (新技術導入・M&A) 	<ul style="list-style-type: none"> ・システム投資 ・物流拠点の拡張 	<ul style="list-style-type: none"> ・部材内製化 ・製造合理化 	
具体的イメージ				
今期計画 実施状況	(億円)			
	2020年3月期	上期(実績・進捗率)	下期(計画差異)	合計(期初計画)
設備投資額		51 (41%)	74	125
減価償却費		29 (48%)	31	60

アメリカ事業：生産能力（22年3月期：19年3月期比 2.0倍 予定）



ライン増設、
工場新設を具体化

ベトナム事業：生産能力（同上：1.5倍 予定）



日本品質への需要増拡大に対応し、
新規機械を投入、生産性・生産量を向上

ブランド認知度を更に向上させるため新商品開発・宣伝強化。

人口・世帯数減少に伴い縮小傾向にある戸建住宅以外の需要を掘り起し

新商品の提供



高品質な構造を活かした戸建て以外の市場開拓

① 当社プロデュース分譲住宅

「エステルマルム」

② 平屋規格商品「レットナード」

③ 高級商品「レイディアンス」



高齢者向けサービス住宅



レイディアンス



賃貸住宅



医院・医院併用住宅



ご参考資料

TOMOKU innovates Packaging

「包む」をイノベーションする。



TOMOKU

段ボール事業、住宅事業（スウェーデンハウス）、運輸倉庫事業、

会社名 株式会社トモク 英文社名 TOMOKU CO.,LTD.

事業内容 段ボール事業、住宅事業、運輸倉庫事業など

所在地 〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-2-2 丸の内三井ビル

設立 1949年5月27日
缶詰用木箱のメーカーとして北海道に設立。その後段ボール事業に転換、全国に事業拡大

代表取締役
 代表取締役会長 斎藤英男
 代表取締役社長 中橋光男

資本金 136億6987万円（2019年9月末現在）

業績 売上高 171,580百万円 営業利益 5,204 百万円（2019年3月期）

従業員数 1,078名（単体）3,490名（連結）（2019年9月末現在（臨時従業員を除く））

証券コード
 上場市場 3946／東証一部、札証

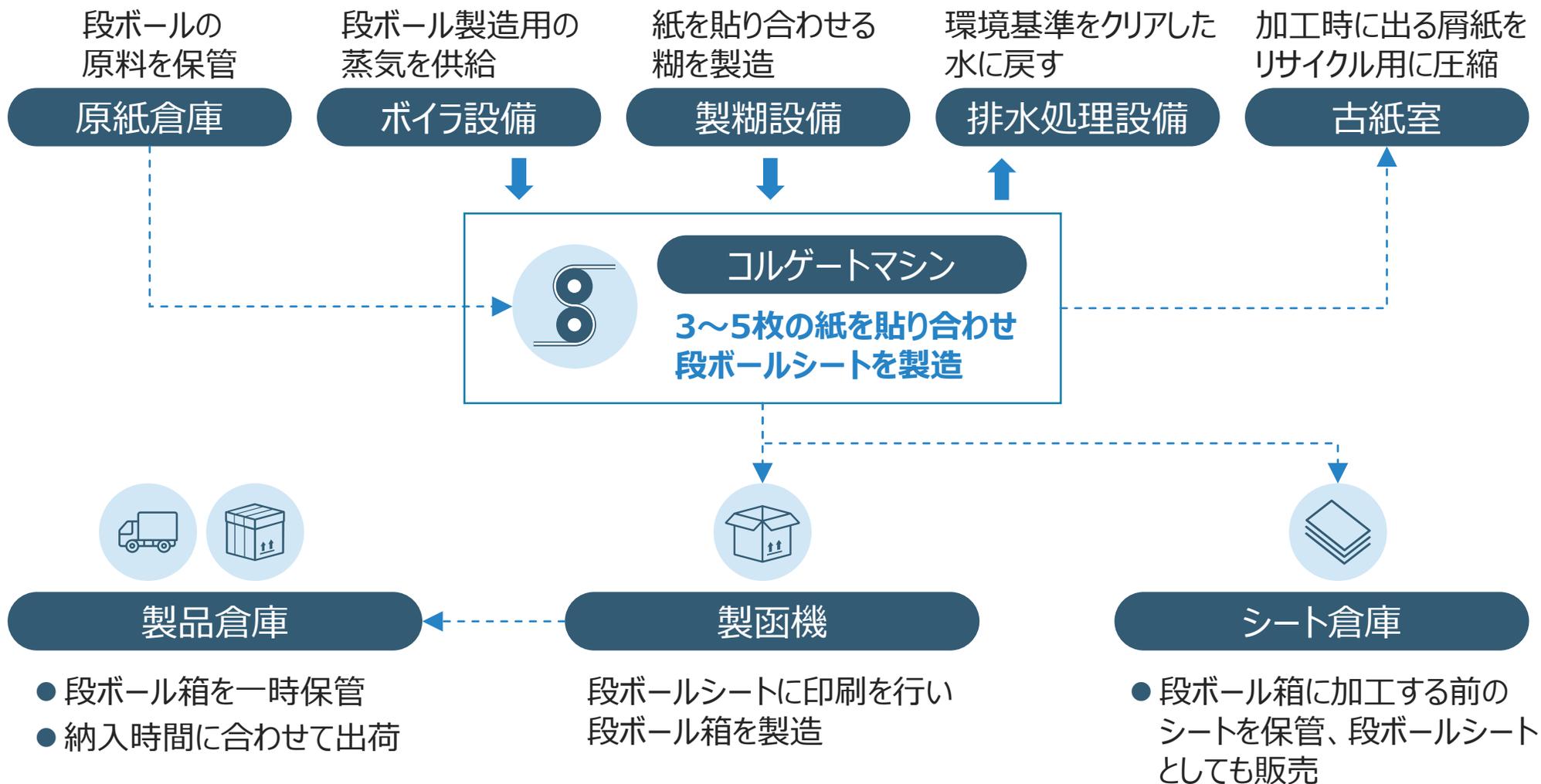
主要工場 17カ所 館林、岩槻、厚木、札幌、神戸、小牧など

連結子会社 17社 国内 14社（住宅事業：スウェーデンハウス、運輸倉庫事業：トウンサービス、トウンロジテムなど）
 海外 3社（段ボール事業：アメリカ・ロサンゼルス、ベトナム・ホーチミン 住宅事業：スウェーデン）

各事業の専門性に磨きをかけ、段ボール、運輸倉庫事業中心に企業価値を強化。

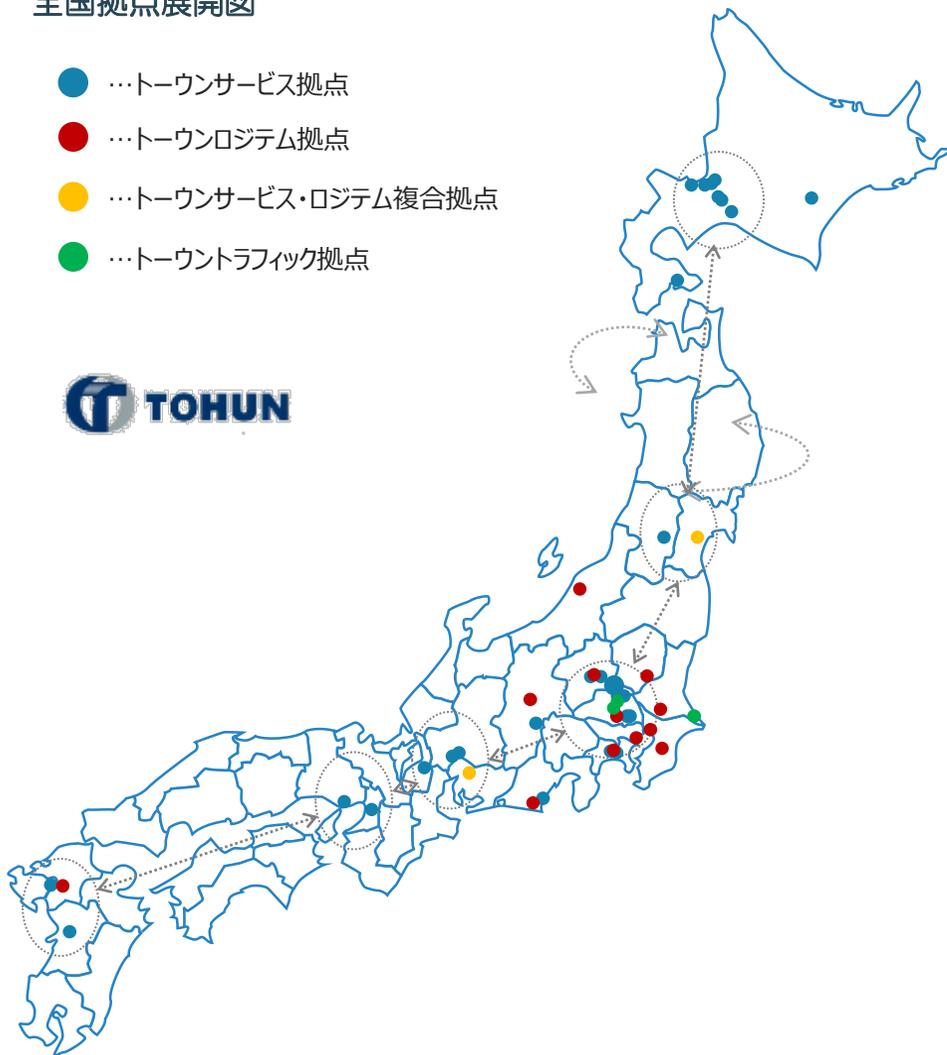
	段ボール	運輸倉庫	住宅
目標値	<ul style="list-style-type: none"> ・売上高1,100億円 ・営業利益率7% 	<ul style="list-style-type: none"> ・売上高450億円 ・営業利益率5% 	<ul style="list-style-type: none"> ・売上高450億円 ・営業利益率4%
活用資源	<p>専門メーカーとしての機動性・専門性</p>	<p>60年の物流ノウハウと全国ネットワーク</p>	<p>唯一無二の高品質注文住宅</p>
成長手段	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化、開発強化による高効率化推進 ・海外事業の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・IT化 ・販売物流の拡大 ・営業拠点の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルハウス再構築 ・作業工程の省力化 ・リフォーム強化
投資	<ul style="list-style-type: none"> ・投資額500億円（海外含む） ・生産拠点の拡充・強化（新技術導入・M&A） 	<ul style="list-style-type: none"> ・投資額100億円 ・システム投資 ・物流拠点の拡張 	<ul style="list-style-type: none"> ・投資額100億円 ・部材内製化 ・製造合理化

複数の紙を貼り合わせる高度かつ繊細な技術が中核。



全国拠点展開図

- …トーウンサービス拠点
- …トーウンロジテム拠点
- …トーウンサービス・ロジテム複合拠点
- …トーウントラフィック拠点



運輸事業

[トーウンサービス車輛]



[トーウンロジテム車輛]



倉庫事業

[石狩5号倉庫(北海道)]



[羽生センター(埼玉県)]



当社の祖業。1984年に注文住宅市場に本格参入、高品質で差別化、「ブランド」確立。



精緻な段ボールの加工技術を応用・発展

事業理念：資産価値の持続する家づくり
品質の差別化：北欧クオリティの「居心地の良さ」

木造住宅でありながら、
面で支える独自の高強度「モノボックス®」構造で
高耐久性・堅牢性・耐震性とレイアウト可変性を実現

クオリティの高さ



高気密
壁・床の継ぎ目にも、
厳重な気密施工

高断熱
魔法瓶のように
高性能な断熱構造

計画換気
24時間熱交換型
換気システムを採用

安定した実績

累計35,000戸 (1984年～)
リフォーム受注高 3,046百万円
(2019年3月期)

効果

段ボール事業の収益補完・
平準化に寄与

紙資源の省資源化に貢献 リデュース（軽量化）、リサイクル ⇒ CO₂ 削減

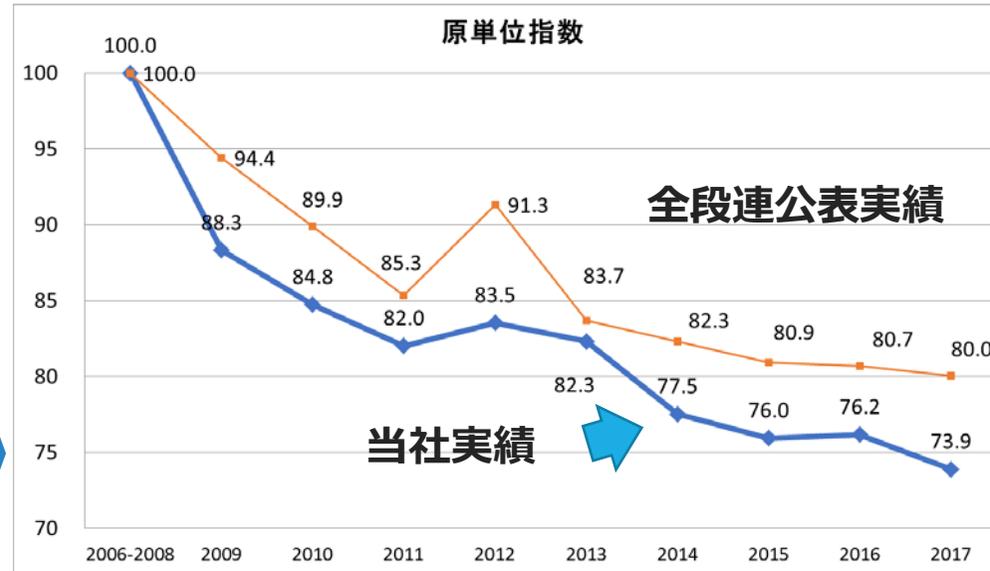
リデュース：使用材料の薄物化などで軽量化



リサイクル：リサイクル機構活用で、回収率95%以上
つぶし易い、たたみ易い段ボールの開発・普及を促進



当社は業界平均を上回るCO₂原単位を削減



国際リサイクルシンボル



(出所：全段連 = 全国段ボール工業組合連合会)

環境改善に直結 = 環境保全（森林育成・CO₂削減）、省エネ（優れた断熱効果）

長寿命（100年）設計（環境保全）

森林伐採サイクル長期化
二酸化炭素長期固定化

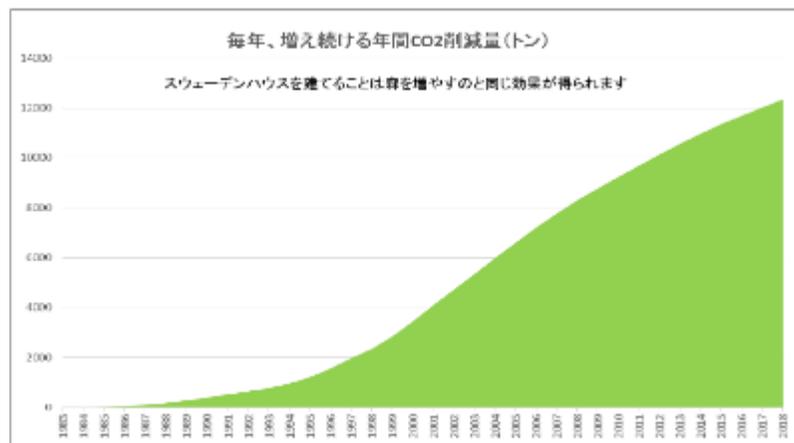
使用木材は、立木量ストックが年々増加

質の高い断熱効果（省エネ機能）

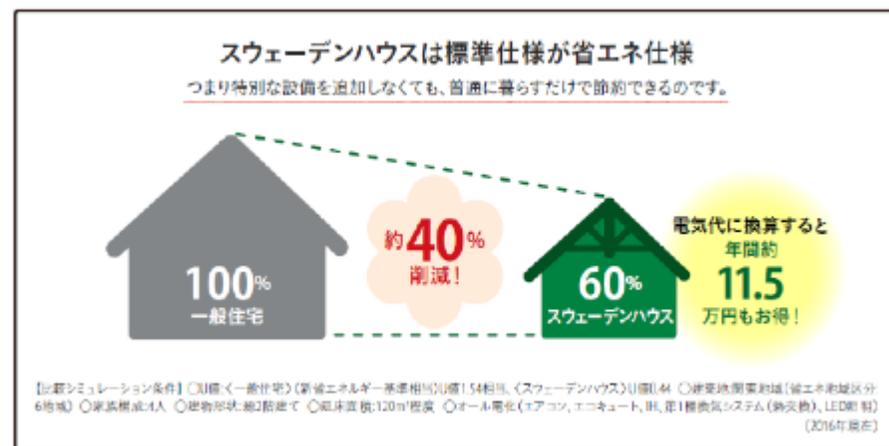
エネルギー消費量大幅削減

- ①家全体を包み込む分厚い断熱材
- ②木製サッシ3層ガラス窓による断熱性能
- ③高气密施工

全国スウェーデンハウスの
削減量：約12,350 t - CO₂年

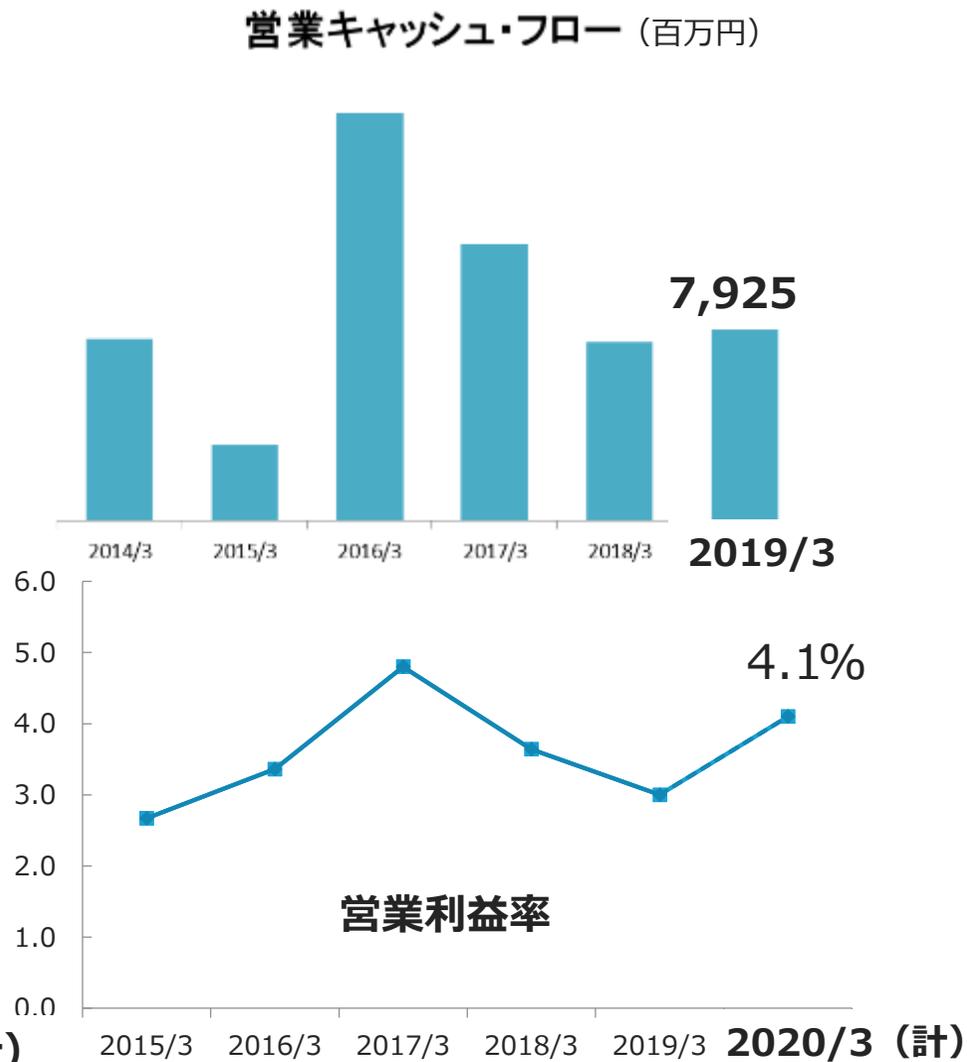
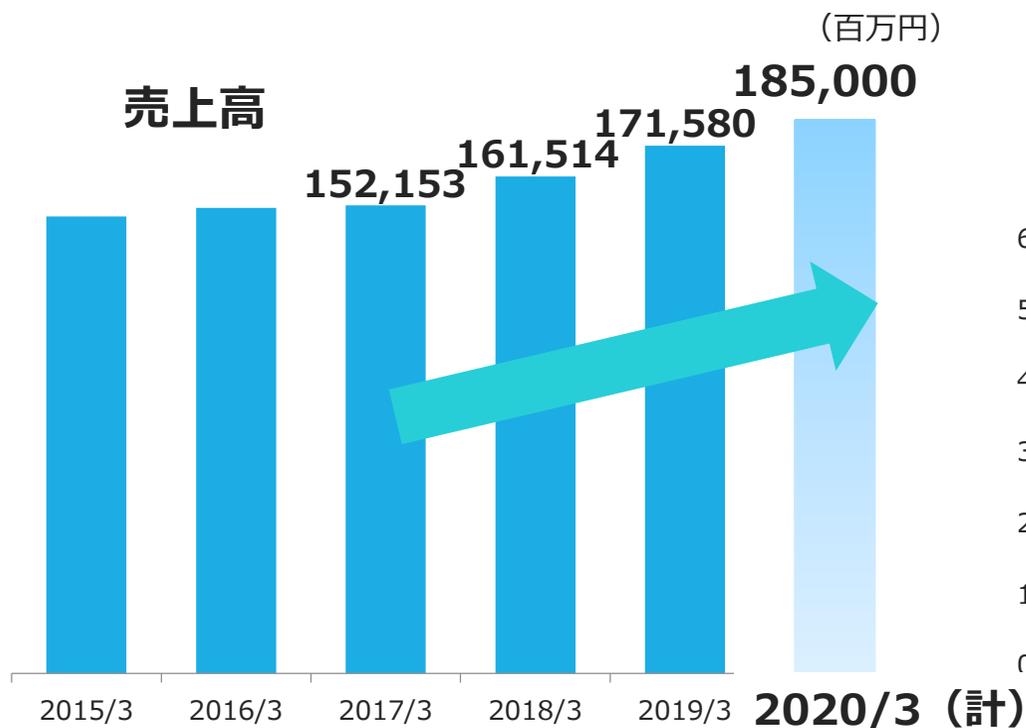


スウェーデンハウス エネルギー消費量
一般住宅比 約40%削減



3部門が一体化して安定した売上動向 + 継続的な営業キャッシュ・フローの創出。

市況産業の段ボール事業を
運輸倉庫事業と住宅事業が補完し合う形で
売上とキャッシュ・フローを創出



免責事項

本資料は、当社の事業及び業界動向について当社による現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確かさが伴っています。既に知られた、もしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2019年11月27日現在において利用可能な情報に基づいて、当社により2019年11月27日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

「包む」をイノベーションする。

株式会社トーモク

東証一部：証券コード 3946

連絡先 mail: 3946ir@tomoku.co.jp